

# [ 釣 漁 業 ]

釣り漁業は釣針を主体とした釣引により1針1尾を基本に操業される。これを大きく分けると、一本釣漁業、延縄漁業に分けられる。

## 1 一本釣漁業

本県の一本釣漁業には比較的深海性のマチ類を対象とする立縄釣、通称①深海一本釣、②タル流し釣、③石巻き落とし釣の3つがある。沿岸域ではムルー、タマン等の④立縄釣、⑤天秤釣があり、トビイカを対象とする⑥トビイカ釣の6つが一般的である。深海一本釣はアカマチ（はまだい）、シチュウマチ（あおだい）、クルキンマチ（ひめだい）等のマチ類を対象として殆どどの地域で見られる。この漁業が最も盛んなのは那覇地区漁協、八重山漁協である。タル流し釣は主としてクロマチ（むつ）を対象に名護漁協が盛んである。石巻き落とし釣（巻き落とし）は主としてマーマチ（おおひめ）、オオマチ（あおちびき）、大口マチ（おおくちいしちびき）等を対象に池間漁協、本部漁協及び港川漁協が盛んである。沿岸域のムルー（ほほあかくちび等）タマン（はまふえふき）等の瀬魚釣はどの地域にも見られ、漁船漁業が盛んでない地域、特に離島地域に多く見られる。トビイカ釣は7月～11月及び12月の漁期で、与那原、知念、港川糸満、国頭、久米島の6漁協が盛んである。

### (1) 深海一本釣（マチ類）……………

那覇地区漁業協同組合

この漁業はアカマチ釣りとして県内に広く操業されている。本漁具は那覇地区漁協所属船で7トン級（FRP）の專業船に使用されているものである。

#### A 漁 具

##### (イ) 一般構成図（図1-1）

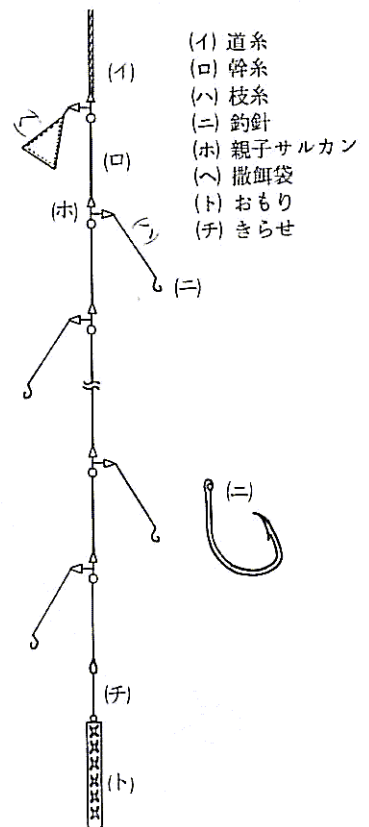


図1-1 漁具の一般構成図

(ロ) 漁具の仕様 (表 1 - 1)

表 1 - 1 漁具の仕様

符号	名称	材 質	規格・寸法	数量	備 考
イ	道 糸	ステンレスワイヤー	# 32、1×7 200~600 m	1本	
ロ	幹 糸	ナイロンテグス	30~40号 1.5~1.7 m	1~2 "	
ハ	枝 糸	ナイロンテグス	20~40号 1.2~1.4 m	10~20 "	
ニ	釣 針	鋼	21~23号	10~20 "	マチ釣針
ホ	サルカン	鋼	3×3号	11~21個	親子型
ヘ	撒餌袋	布	30~33 cm	1	赤色
ト	おもり	鉄	径1寸 1.5~2.5 Kg	1ヶ	鉄筋
チ	きらせ	綿 糸	15本あわせ 20~30cm	1	

B 漁 法

(イ) 操業方法

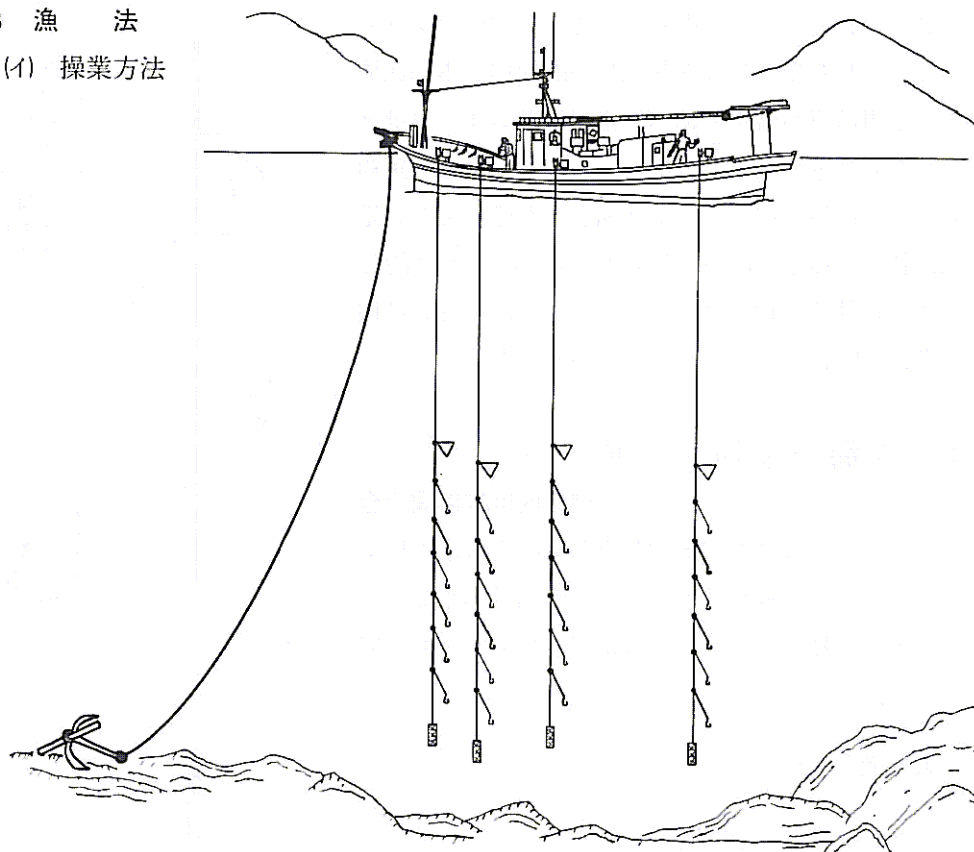


図 1 - 2 操業見取図

電動一本釣機、ラインホーラー（一般にアンカー揚げ用）、魚群探知機（カラー）ロラン等を装備し2～3人乗り組み、日中操業する。魚群反応、海底地形をみて漁場を選定し、潮上からアンカーを投入して船を安定させて操業を開始する。操業は夜明け前から日没まで行い、喰いつきによってアンカーロープを伸縮する。漁模様にもよるが漁場移動は普通一日数回行う。餌は主に冷凍ムロを使う。撒餌には餌を切った残りの頭骨をたたきにしたものや圧片麦等を三角袋に入れて封をしないで使う（おもりの降下が速ければ開封しない。）なお餌は10～13Kg入れの箱詰めであるが餌が氷蔵中悪くならないため積み込み時に塩を上からふりかけ箱ごとビニール袋に入れて氷蔵する。またアンカーによる固定操業であることから常に予備鉄筋アンカー（5 m 70 Kg～100 Kg）は1ケ以上持って出漁する。

(ロ) 漁期、漁場および漁獲物

漁期は周年で5トン以上の船は、夏は伊平屋島から宮古諸島にかけての曾根域、冬は尖閣諸島海域、沖縄宮古間の曾根域の水深150～350 mのところ。1航海10～15日で水は3トン程度積み漁獲物のアカマチ（はまだい）、シチューマチ（あおだい）、クルキンマチ（ひめだい）等は氷蔵する。

(2) 深海一本釣（マチ類）

渡嘉敷漁業協同組合

この漁具は渡嘉敷漁協所属の1人乗りサバニ（1.5～2トン）で、慶良間諸島周辺の水深150～350 mのところで行われ主に曳縄漁業との兼業である。

A 漁具

- (イ) 一般構成図（図1-1）
- (ロ) 漁具の仕様（表1-1）

B 漁法

魚群探知機を装備している船はそれでたなさがしをし、つけてない船は山立てで行う。

操業は日中行い日帰りである。餌

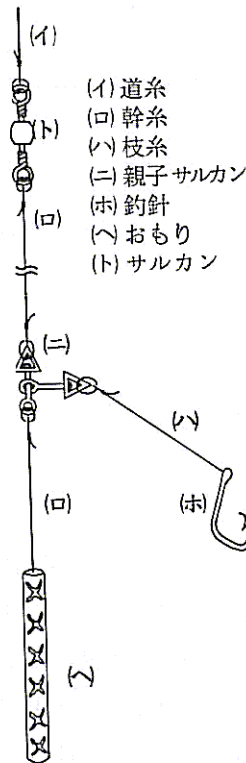


図1-1 漁具の一般構成図

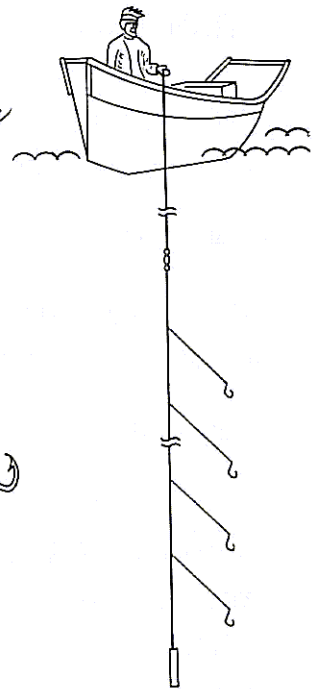


図1-2 操業見取図

表 1 - 1 漁具の仕様

符号	名称	材 質	規格・寸法	数 量	備 考
イ	道 糸	テトロン } 混 ナイロン }	50~60号 500~600m	1本	スーパートト印
ロ	幹 糸	ナイロンテグス	80号 1.5~2.0 m	6~8本	
ハ	枝 糸	ナイロンテグス	16~18号 1.2 m	5~7本	
ニ	サルカン	真ちゅう	4×4	5~7個	親子サルカン
ホ	釣 針	鋼	18~20号	5~7本	マチ釣針
ヘ	お も り	鉄	径32mm 30~40cm 2~3kg	1ヶ	鉄筋
ト	サルカン	真ちゅう	3/0	1個	タル型

は冷凍サンマを3枚おろしにして肉の部分を適宜切って使う。漁期は周年であるが4月~8月の間は曳縄漁を行う。漁獲物はマチ類、ハタ類、アジ類、シロダイ類で氷蔵にする。なお釣り揚げ時にサメ（主にイタチザメ、ヒラカシラ）による食害が多い。

(3) 深海一本釣（マチ類）……………与那国町漁業協同組合

与那国地区の深海一本釣は殆んどカジキ曳縄との兼業である。本漁具は与那国町漁協所属船では一般に使用されているものである。

A 漁 具

- (イ) 一般構成図（図1-1）
- (ロ) 漁具の仕様（表1-1）

B 漁 法

2~5トンの船でロランA、魚群探知機（カラー）、電動一本釣機（1台~2台）1W無線電話を装備し、与那国島周辺の曾根（中ノ曾根、台湾曾根その他の瀬礁）を主漁場として水深150~350mの範囲を日帰り（午前6時~午後6時頃）か1泊2日の日程で操業する。餌はカツオ、シビを曳縄で釣って使う。撒餌は餌の残りものと、時々オキアミを使う。操業は、流し釣りでアンカーは使わない。流況や喰いが悪い時は1日何回か移動する。漁獲物はアカマチ（はまだい）、マーマチ（おおひめ）、白マ

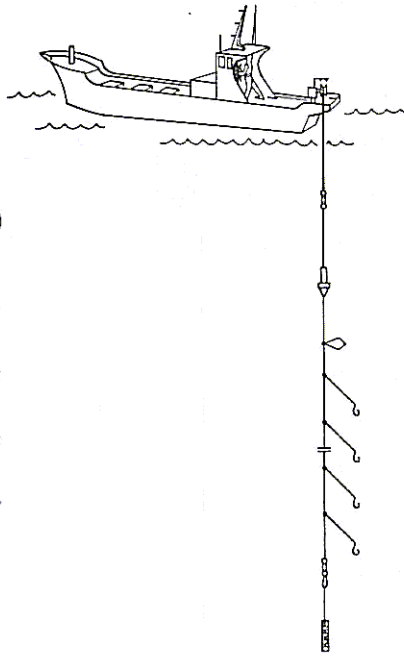
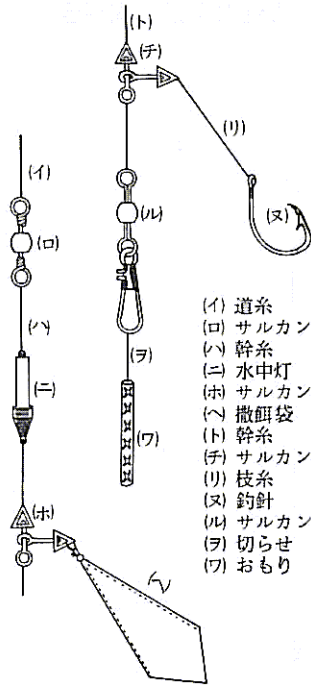


図 1 - 1 漁具の一般構成図

図 1 - 2 操業見取図

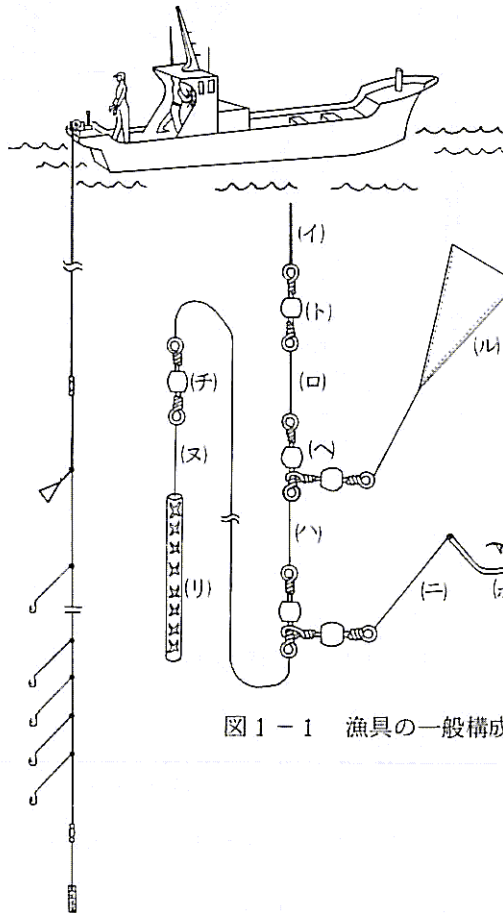
表 1 - 1 漁具の仕様

符号	名称	材 質	規格・寸法	数量	備 考
イ	道 糸	①ステンレスワイヤー	#30~31 1×7 800m	1 本	
		②テトロン } 混 ナイロン }	50号 800m	1 本	スーパート印
ロ	サルカン	鋼	3 / 0	1 個	タル型
ハ	幹 糸	ポリプロピレン	50号 2.5 m	2 本	組糸
ニ	水 中 灯	プラスチック	2 号	1 個	ジャンボライト
ホ	サルカン	鋼	4 × 4	1 個	親子型
ヘ	撒 餌 袋	ビニール	30 × 20 cm	1 袋	白色 ビニールテント
ト	幹 糸	ナイロンテグス	40号 2.5 m	10本	ニュークロ印
チ	サルカン	鋼	3 × 3	10個	親子型
リ	枝 糸	ナイロンテグス	30号 2 ~ 2.2 m	10本	
ヌ	釣 針	鋼	23~25号	1 本	マチ釣針
ル	サルカン	鋼	中型	1 個	スナップ付
ヲ	切 ら せ	ナイロンテグス	26号 2 ~ 3 m	1 本	クレーンサルカン
ワ	お も り	鉄	6分~7分 40~60 cm (1.5 ~ 3 Kg)	1 ケ	鉄筋

チ（あおだい）、ムツ、エチオピア等で氷蔵にする。最近パヤオの設置効果により、1月～9月はカジキ曳縄漁で10月～12月までが一本釣漁である。

(4) 深海一本釣 (マチ類) ..... 八重山漁業協同組合

八重山漁協の深海一本釣漁船は2～4トンで1～2人の乗組員である。県内では那覇地区とともに最も盛んで経営体は140ほどもある。漁獲物の多くは漁協を通じて那覇方面に出荷されている。本漁具は八重山漁協所属船では一般的に使用されているものである。



- (イ) 道糸
- (ロ) 幹糸
- (ハ) "
- (ニ) 枝糸
- (ホ) 釣針
- (ヘ) サルカン (親子)
- (ト) サルカン
- (チ) サルカン
- (リ) おもり
- (ヌ) 切らせ糸
- (ル) 撒餌袋

図1-1 漁具の一般構成図

図1-2 操業見取図

表1-1 漁具の仕様

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
イ	道糸	テトロン } 混 ナイロン }	40～50号 400～700 m	1本	スーパートト印
ロ	幹糸	ナイロンテグス	40～60号 50 m	1本	
ハ	"	"	40号 1.5 m	16～26本	
ニ	枝糸	"	30号 70 cm	15～25本	
ホ	釣針	鋼	21～23号	15～25本	
ヘ	サルカン	鋼	5/0 × 4/0	15～25個	タル型
ト	"	"	5/0 ～ 4/0	1個	" (タル型(親子型)サルカンの1本をカットして使う)
チ	"	"		1個	
リ	おもり	鉄	1インチ 30～50 cm (2～3Kg)	1ヶ	鉄筋
ヌ	切らせ糸	ナイロンテグス	24号 50 cm	1本	
ル	撒餌袋	ビニール	30 cm	1袋	厚目のビニールを二等辺三角形にして切り、2辺を熱処理して、はり合わせて作る

## A 漁 具

(イ) 一般構成図 (図 1-1)

(ロ) 漁具の仕様

## B 漁 法

日帰り操業の時は未明には出港し沖泊り(旅に出るという)の時は夜が明けてから積み込みして出港する。漁場は島棚、台湾曾根、中ノ曾根等で魚探でたなをさがし、魚群反応をみて鉄筋アンカー(30Kg~40Kg)を投入して、電動一本釣機を使って操業する。

餌は冷凍シビ、カツオ、ムロ、若イカ等でまき餌には、餌の残りを包丁でこまかくして使う。対象魚種によって餌の使い分けもし、アカマチにはカツオ、ヒチューマチにはシビ、若イカを使う漁獲物は甲板上に水氷を入れたアイスボックスに予め入れてから適宜魚艙に入れるが直接魚艙に入れて氷をかけ、あるいはかます袋を上からかぶせる。(船はFRPであり、熱の反射が強いので漁獲物を適切な処理する。)操業は日中行う。漁場水深はヒチューマチを対象とするときは150~200m、マーマチは120~160m、アカマチは270~350mで操業する。漁期は周年で、1航海1日~4日である。漁船装備は、自動操舵、ロランA、魚群探知機(カラー)、1W無線電話、電動一本釣機1~2台。

## (5) 深海一本釣 (マチ類) .....平良市漁業協同組合

この漁法は平良市漁協所属の2~3トンFRP漁船に使用されているものである。

## A 漁 具

(イ) 一般構成図 (図 1-1)

(ロ) 漁具の仕様 (表 1-1)

## B 漁 法

(イ) 餌料の種類と使用方法

餌料は冷凍サバ、ムロ、カツオ、イカ(ムラサキイカ)などを長さ7cm、幅3cm程度に切り(魚種によって多少異なる)2度がけにして使う。撒餌にはイワシをたたきにして細かくし、家畜用配合飼料(麦)及び砂を混ぜて使う。

(ロ) 撒餌袋の製作方法と装餌の方法

袋は不用傘布地を $\frac{1}{5}$ に切り両面を縫い合わせて三角袋を作る。撒餌は袋(三角

布)の下部にまず砂を一にぎり入れ、次いで撒餌を約半分詰めて上部にしぼりを入れてダンゴ状にして垂下する。撒餌はおもりが海底に着地した時に2~3回シャクリを入れて放出する。砂を入れるのは途中で袋が開かないためとおもりの役目も果す。

(イ) 操業方法

2~3トンの小型漁船に1人乗って操業する。漁船の装備は1W無線電話機、魚群探知機(カラー)、電動一本釣機2台で、魚探により瀬礁や魚群反応をみる。漁場が決まったら瀬上りと、魚群に投縄できるようにアンカー(約30Kg)を潮上から投下し船を固定する。漁具は1人で2本使用し、船尾から投縄する。

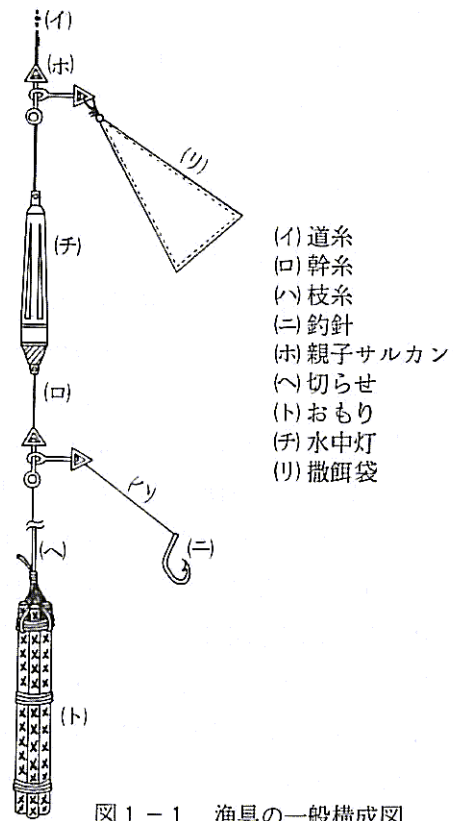


図1-1 漁具の一般構成図

表-1 表具の仕様

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
イ	道糸	テトロン } 混 ナイロン }	32号 600 m	1本	スーパート印
ロ	幹糸	ナイロンテグス	35号 2 m	4~10本	ニュークロ印
ハ	枝糸	ナイロンテグス	20~28号 1 m	4~10本	ニュークロ印
ニ	釣針	鋼	22~24号	4~10本	マチ釣針
ホ	サルカン	鋼	3 / 0 × 3 / 0	5~11個	親子サルカン
ヘ	きらせ	ナイロンテグス	10~15号	1本	綿糸を使う場合もある
ト	おもり	鉄	6分鉄筋3本合せ 25~35cm (2 Kg~3 Kg)	1ヶ	
チ	水中灯	プラスチック	ジャンボライト 2号	1個	単3電池2ヶ入れ
リ	撒餌袋	ポリエステル又はナイロン	20cm×25~30cm	1袋	雨傘用布



おもりが海底に着いたら2～3 m上げて撒餌のためシャクリを入れる。朝、夕の潮どまり時のまづめが釣獲率は高い。1航海2日～3日の日程である。

### C 漁期および漁獲物

漁期は周年であるが、最近浮魚礁（パヤオ）の設置効果により10月～4月まではキハダ、カツオ等をねらって浮魚礁利用漁法である曳縄、流し釣りをを行う。漁場は宮古諸島周辺の水深150～400 mの海域及び宮古曽根域である。対象魚種はアカマチ（はまだい）、クルキンマチ（ひめだい）、シチューマチ（あおだい）等である。

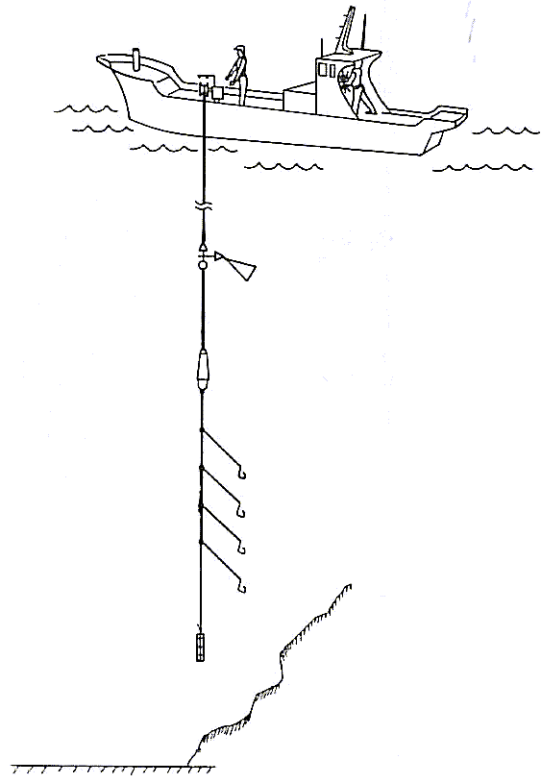


図1-2 操業見取図

## (6) 深海一本釣（マチ類）……………与那城村漁業協同組合

5トン未満のFRP漁船で伊計島、津堅島、久高島沖合にかけての水深200～500 mで主としてアカマチ（はまだい）を対象とする。この深海一本釣は与那城村漁協所属漁船では一般的に使用されているものである。

### A 漁 具

- (イ) 一般構成図（図1-1）
- (ロ) 漁具の仕様（表1-1）

### B 漁 法

2～4トンの漁船で1人～2人乗組み、漁場は沖縄本島沖合の200 m線以深が漁場である。流し釣り操業で魚探反応や棚の状態をみて判断し漁場を決める。潮上から漁具を投入し前進、停止をくりかえして操業する。操船及びエンジン操作は遠隔操

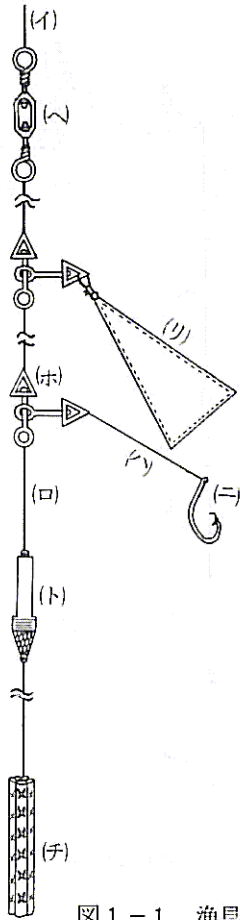


図1-1 漁具の一般構成図

- (イ) 道糸
- (ロ) 幹糸
- (ハ) 枝糸
- (ニ) 釣針
- (ホ) サルカン (親子型)
- (ヘ) サルカン (箱型)
- (ト) 水中灯
- (チ) おもり
- (リ) 撒餌袋

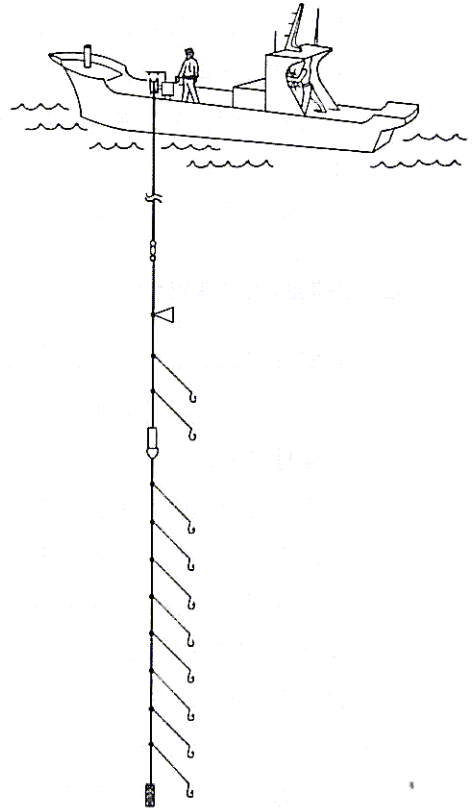


図1-2 操業見取図

表1-1 漁具の仕様

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
イ	道糸	テトロン } 混 ナイロン }	60号 700m	1本	スーパート印
ロ	幹糸	ナイロンテグス	40~50号 1.6m	11本	ニュークロ印
ハ	枝糸	〃	30~35号 1.4m	10本	ニュークロ印
ニ	釣針	鋼	23号	10本	マチ釣針
ホ	サルカン	鋼	3/0 × 3/0	11個	親子型
ヘ	〃	真ちゅう	2/0	1個	箱型
ト	水中灯	プラスチック	2灯型	1個	ジャンボライト
チ	おもり	鉄	2kg 6分~1寸 6分ものは60cm 1寸ものは30cm	1ヶ	鉄筋
リ	撒餌袋	ビニール又は ナイロン、ポリエ ステル		1袋	傘用布又は厚 手のビニール 袋

縦で行う。夜明け前に出漁し日没には帰港する。餌はムロを三枚おろしにし、釣針に2度がけに装餌する。水中灯は常に使い、その上5 mのところ撒餌袋をとりつけてオキアミを使用して集魚、餌付けをよくする。漁獲物はアカマチ（はまだい）、オオマチ（あおちびき）、フカヤビタロー（はなふえだい）、ハタ類で、氷蔵する。

(7) タル流し（クロマチ）……………名護漁業協同組合

5～7トン型のFRP船でムツを対象とする。タル流し漁法の導入は昭和57年で本格的な操業は58年からである。タル流し漁法は名護漁協では現在7～8隻操業しており、本漁具はその中のFRP5トン船の現用しているものの紹介である。

A 漁 具

- (イ) 一般構成図 (図1-1)      (ロ) 漁具の上部拡大図 (図1-2)  
 (ハ) 漁具の仕様 (表1-1)

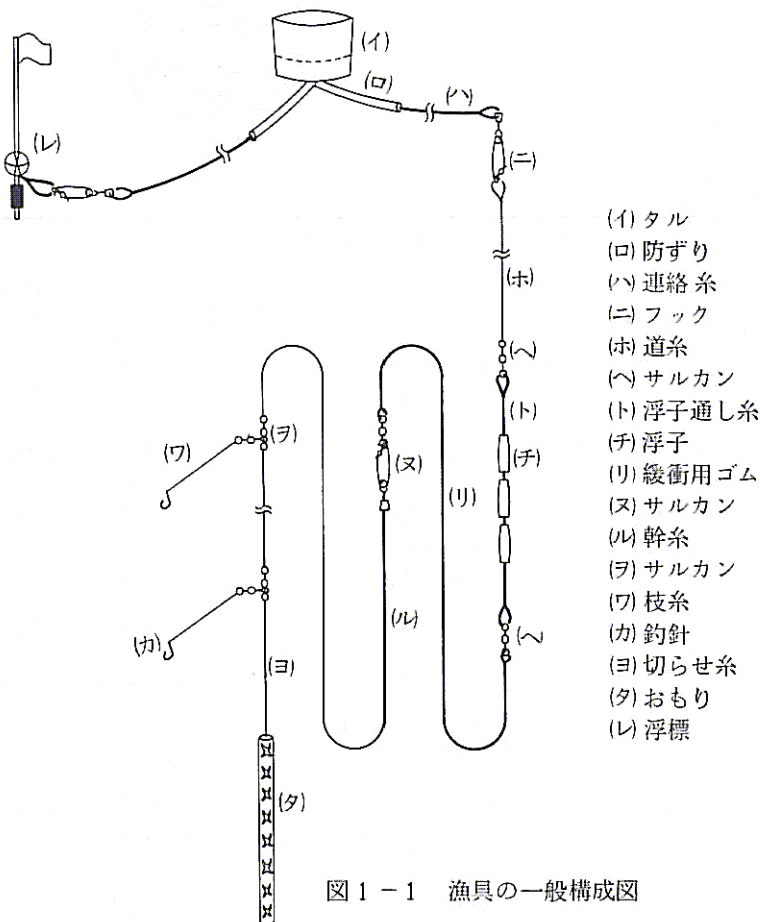


図1-1 漁具の一般構成図

図 1-2 漁具の上部拡大図

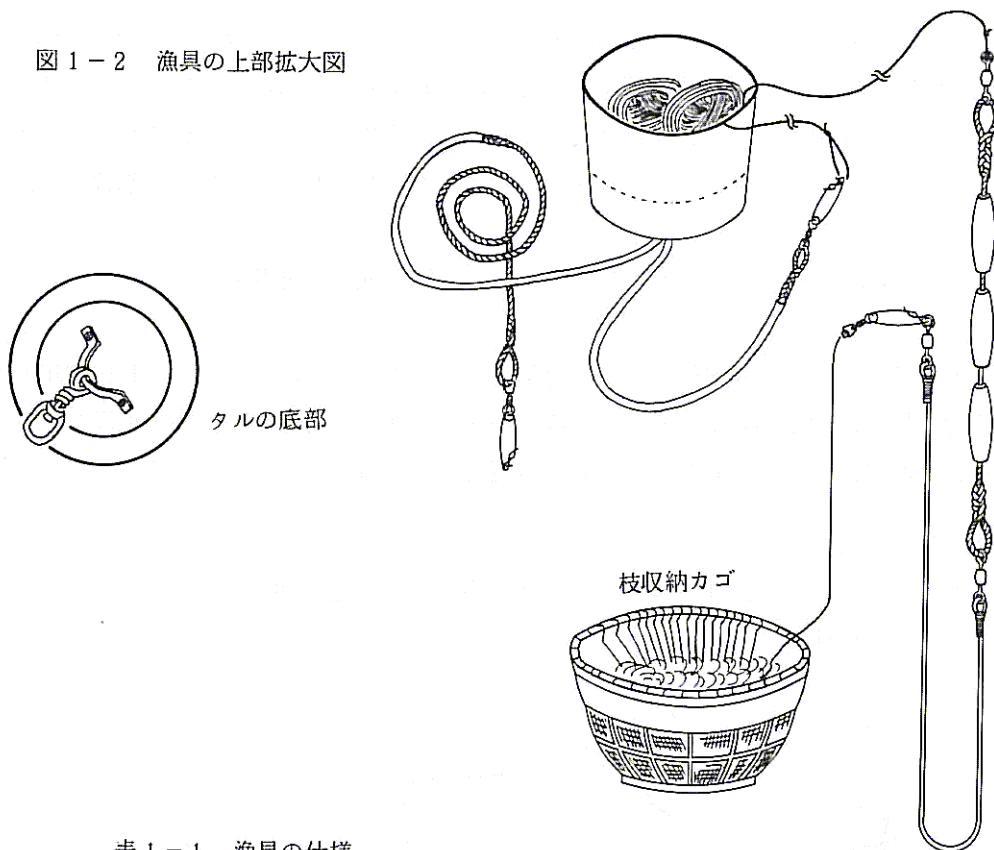


表 1-1 漁具の仕様

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
イ	タル	F, R, P	高さ35cm、上径46cm、底径40cm	1個	二重底10cm内側
ロ	防ずり	ビニールホース	2m	2本	発泡スチロール
ハ	連絡糸	PP (ポリプロピレン)	径6mm、2m、4.5m	2本	
ニ	フック	鋼	3.5 × 125	2個	SBL付 ブランチハンガー
ホ	道糸	PP (ポリプロピレン)	3mm、600m	1本	ダイヤロクロスロープ
ヘ	サルカン	鋼		2個	クレーンサルカン L型
ト	浮子通し糸	PP (ポリプロピレン)	7mm、70cm	1本	ダイヤロクロスロープ
チ	浮子	合成樹脂	AC-5	3~5個	Plover印
リ	緩衝用ゴム	上質ゴム	5mm、1.2m	1本	
ヌ	サルカン	鋼	3.5 × 125	1個	SBL クレーンサルカン 付ブランチハンガー
ル	幹糸	ポリエチレン	60号 2m	25~30本	マルロン、又はパー ロン 120の場合あり
ヲ	サルカン	鋼	2/0 × 3/0	25~30個	クレーン親子サルカン
ワ	枝糸	ナイロンテグス	90ポンド 1m	25~30本	
カ	釣針	鋼	25号	25~30本	マチ釣針
ヨ	切らせ糸	ナイロンテグス	40~60ポンド 3m	1本	パーロン
タ	おもり	鉄筋	4分 2m	1本	
レ	浮標(浮子)	発泡スチロール	33cm	1個	

## B 漁 法

5 トンの船に2～3人乗組む。装備は自動操舵、ロランA、無線電話、魚探(カラー)揚縄機(ラインホーラー1～2台)等である。漁具は15～20組使用する。操業は魚探で棚を探索し、夜明け時に開始する。タルは潮流方向に対し斜めの方向(45°程度)から1個1個流し、タルとタルの間隔は50～100 mにする。約30分で投縄を終え、約1時間後にラインホーラーで揚縄する。1タルの揚縄時間は20～30分で、揚縄は数個揚げた時点で餌を付けて流し、次いで数個揚げてまた餌をつけて流す方法をとる。餌はサバを開きにし塩をかけてしめてから斜切りにして使う。サバは餌持ちも良い。操業日数は7日～10日で周年操業である。漁場は曾根(相の曾根、伊平屋曾根等)域で水深400～600 mの範囲、釣獲率の高いのは480～550 mで漁獲物はクロマチ(むつ)、キンメ(なんようきんめ)が主で氷蔵にする。

## (8) 石巻き落とし(通称イシマチャー)(マーマチ、ミーバイ類)……………

本部漁業協同組合

本部における石巻き落とし漁法は57年頃までは30隻程度あったが現在は10隻たらずで石を集める苦勞もあり次第に通常の1本釣りにかわって来ている。

### A 漁 具

- (イ) 一般構成図(図1-1)
- (ロ) 漁具の仕様(表1-1)

### B 漁 法

1～3トン未満のFRP船で1人乗り、装備は魚探(幹式1W無線電話、電動一本釣機1～2台、自動操舵装置である。ミーバイ類(アカジン、その他のミーバイ)シルイユ(しろだい)等をねらい漁場は北部沿岸の水深40～50 mの

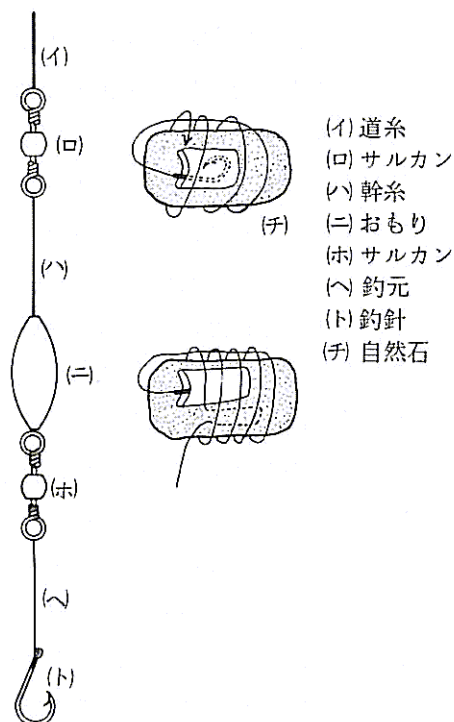


図1-1 漁具の一般構成図

表 1 - 1 漁具の仕様

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
イ	道 糸	テトロン } 混 ナイロン }	35号 100m	1 本	スーパートト印
ロ	サルカン	鋼	4 / 0	1 個	タル型
ハ	幹 糸	ナイロンテグス	40号 15m	1 本	
ニ	お も り	鉛	30~80匁	1 ケ	だ円貫通型
ホ	サルカン	鋼	3 / 0	1 個	タル型
ヘ	釣 元	ナイロンテグス	28号 8 m	1 本	
ト	釣 針	鋼	19号	1 本	ナス型
チ	自然石		400~600 匁	1 個	

瀬礁地帯で、漁期は9月～4月である。餌は一般にムロをかけ餌に使い、撒餌用はムロの切り身の残りものを細かくして使う。操業方法は魚の魚探反応により瀬の棚状が起伏のあるところを選び、潮上よりアンカーを投入して船を固定する。石巻きの仕方は、①釣針に餌をかけ、石の上に置く。②置いた餌の上を釣元の枝ナイロンテグスで2～3回巻く。③その上に撒餌

(ムロの頭や骨、肉片を包丁で細かくする)を乗せ、落ちないように適当に撒餌の上から巻く。④枝ナイロンテグスをU字型に曲げ、⑤先に巻いたナイロンテグスの中に入れて、強く引っぱったら抜ける程度にしめる。次いで餌の巻かれた石を持って自然の状態で落下させ、海底に着いたら手元を強く引っぱって石をはずす。魚の喰い付きにかかわらずこの釣り方をくりかえす。

使用される石は約100個、ナイロンテグスの巻きやすい型の石が良い。操業は昼夜にわたるが一般に日中で日帰りか2日程度の航海で漁獲物は氷蔵にする。

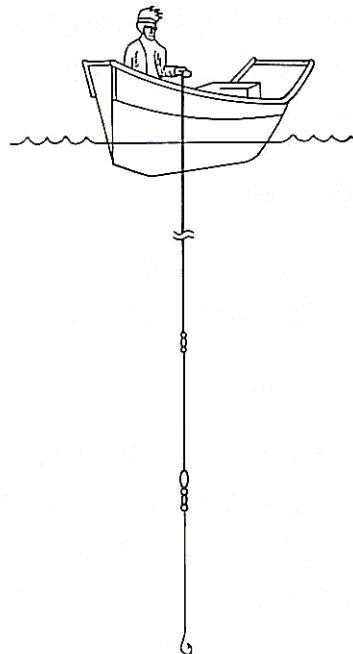


図 1 - 2 操業見取図

(9) 石巻き落し (グルクンマチ他) ……………池間漁業協同組合

池間漁協所属のクリ舟から和船型の1～5トン級の漁船はこの漁法(巻き落としと称している)を周年行い5トン以上は6月～9月までカツオ竿釣りをする。主漁場は沿岸から沖合の宮古曾根。石巻き落し操業船は50～60隻、最近石不足で宮古本島の碎石場から大量購入(1個0.5Kg～1.5Kg程度の大きさ。2トンで数千円)して使っている。

A 漁 具

本漁具は2.5トンFRP漁船に1人乗船し現用しているものである。

- (イ) 一般構成図 (図1-1)
- (ロ) 漁具の仕様 (表1-1)

B 漁 法

装備は、羅針儀、自動操舵装置、魚群探知機(乾式)無線電話(1W)、一本釣機(電動)で周年操業する。漁場は宮古諸島周辺域～宮古曾根にかけてで、水深は70～150m、1航海1～3日漁獲物はグルクンマチ(おおひめ)、アオマチ(あおちび

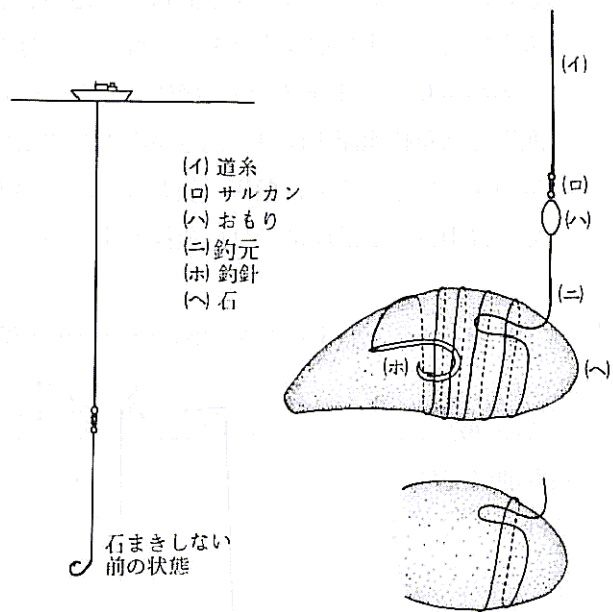


図1-1 漁具の一般構成及び石巻きの仕方

表1-1 漁具の仕様

符号	名称	材 質	規格・寸法	数量	備 考
イ	道 糸	ナイロンテグス	90号 300m	1本	モージョン印
ロ	サルカン	真ちゅう	4/0	1個	タル型
ハ	お も り	鉛	8匁	1ケ	貫通式で(枝条を通して両端をたたいて固着)
ニ	釣 元	ナイロンテグス	18～25号 5～6m	1本	ニュークロ印
ホ	釣 針	鋼	18～25号	1本	マチ釣針
ヘ	石	自然石	0.5～1.5Kg	1個	(1日70～80個)

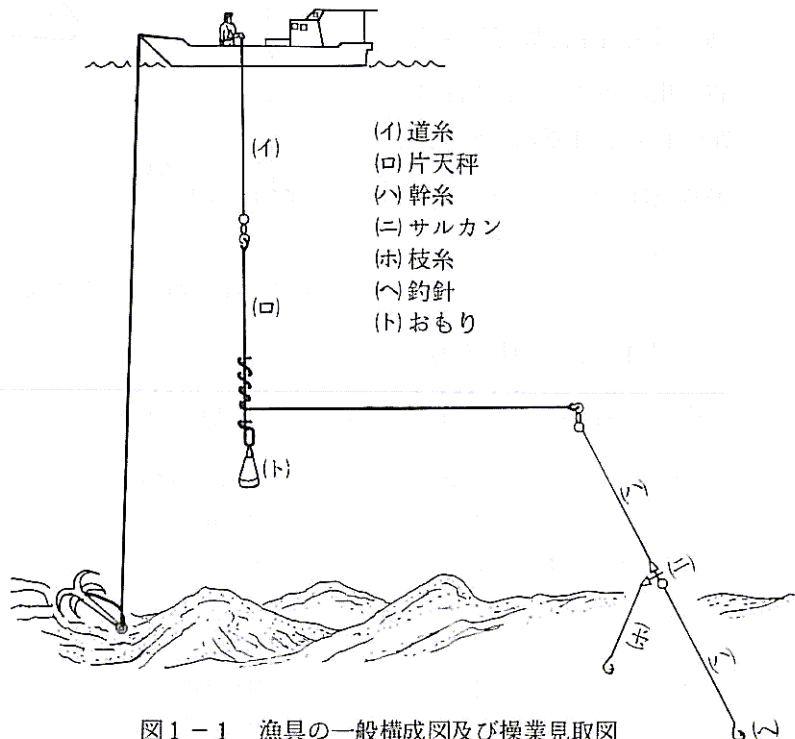
き)、タイクチャー(おおくちいしちびき)、USSYU(しろだい)、ニバラ(はた類)等で、氷蔵にする。餌は冷凍ムロ、マイワシ、ヤマトミズンを3枚おろしにし、肉の部分を適当に切って2度がけにして装餌する。頭、骨はこまかくし、また餌を輪切り(1cm幅)にして撒餌に使う。

石巻き落しの操業方法は漁場を選定(たなを魚探でさがす)したらアンカー(30kgの鉄筋加工)を潮上から投入して操業位置上に船を安定させ、操業する。餌の装着は①釣針に餌をかけ、それを石におく(釣針先は常に手前に向ける。但し、左ききの人は反対向け)、撒餌はその上に乗せ枝条であるナイロンテグスで全体を5~6回巻く、巻く時は釣針の先につけないようにする。ナイロンテグスをC状にして石と巻いたナイロンテグスのすき間に差し込み、石の重みで自然に落下させ、着底したら巻いた分以上に引き上げてから強く引っ張り石を落とす、着底したまま石をはなすと瀬がかりや釣針(餌付け)と撒餌の効果がうすれる。グルクンマチ、タイクチャー漁場では魚探水深と漁具の長さを勘案して海底から10m程度のところで石は落とす。喰いが良いところでは撒餌は使わない。この方法をくりかえし行う。操業は、曾根では日中行うが沿岸域では昼夜操業する時もある。

(10) 瀬魚一本釣 (USSYU他) .....多良間村

この漁法は多良間地区では一般的であるが曳縄との兼業が殆んどである。本漁法は2トンのFRP漁船に1人乗り、魚群探知機だけ装備し巻揚げ機は使用していない。

A 漁具  
(イ) 一般構成  
図(図1-1)





(ロ) 漁具の仕様 (表 1-1)

表 1-1 漁具の仕様

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
イ	道 糸	ナイロンテグス	60ポンド 150 m	1 本	バーロン (日本製20号相当)
ロ	片天秤	鋼 線	#12 35cm×70cm	1 ケ	上下にタル型サル カン3/0付き
ハ	幹 糸	ナイロンテグス	40ポンド 1.5 m	2 本	バーロン (日本製8号相当)
ニ	サルカン	鋼	3/0 × 3/0	1 個	親子型
ホ	枝 糸	ナイロンテグス	40ポンド 80 cm	1 本	
ヘ	釣 針	鋼	19~22号	2 本	マチ釣針
ト	おもり	鉛	40~100匁	1 ケ	

B 漁 法

夜明けに出港し夕方帰港する。漁場は多良間島、水納島周辺の水深30~70 m、漁期は10月~3月(4月~9月はカツオ、シビ、サワラ曳縄を行う)、瀬にアンカー(15Kgの鉄筋加工)を入れて天秤に枝糸を1~2本つけて手釣りする。餌はタコ、冷凍イカ、カツオを適当に切り身にして使う。漁獲物は、ッスユ(しろだい)、タマン(はまふえふき)、オオム(はほあかくちび類)

(11) 瀬魚一本釣 (ミミジャー、ニバラ他) …………… 伊良部町漁業協同組合

伊良部町漁協で底魚を目的とする漁業者は5経営体で、小型船は殆んど曳縄漁業に依存している。本漁法は曳縄漁業と兼業しているものの紹介である。

A 漁 具

(イ) 一般構成図 (図 1-1)

(ロ) 漁具の仕様 (表 1-1)

B 漁 法

3トンのFRP漁船で1人乗りで、魚探(乾式)、自動操舵装置を装備している。漁場は八重干瀬周辺、多良間周辺で瀬礁域の水深15~80 mの範囲である。1日~2

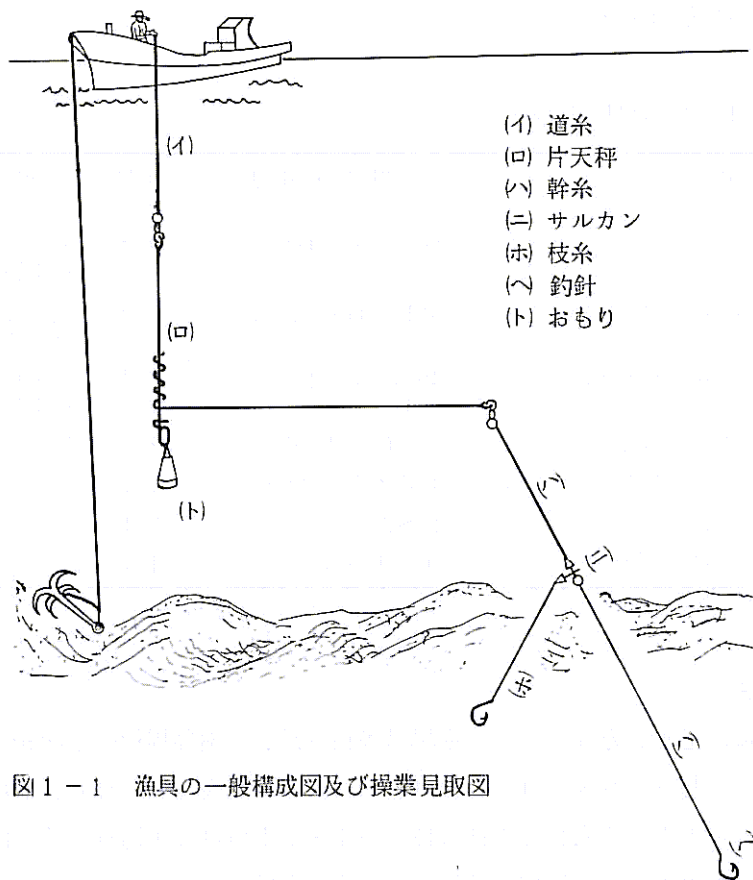


図1-1 漁具の一般構成図及び操業見取図

表1-1 漁具の仕様

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
イ	道糸	ナイロンテグス	60ポンド 150 m	1本	パーロン印
ロ	片天秤	鋼線	#10~12 35cm×70cm	1ヶ	
ハ	幹糸	ナイロンテグス	40~50ポンド $\frac{上}{下} 2 \sim 3 m$ $\frac{上}{下} 5 m$	2本	パーロン印
ニ	サルカン	鋼	3/0 × 3/0	1個	
ホ	枝糸	ナイロンテグス	30ポンド~40ポンド 1.5~2.0 m	1本	パーロン印
ヘ	釣針	鋼	19~21号	1本	マチ釣針
ト	おもり	鉛	40~200匁	1ヶ	潮流の強弱による使いわけ

日の航海で漁期は6月~10月。漁獲物はミミジャー（ひめふえだい）、ニバラ類（はた類）、タマン（はまふえふき）等である。操業は魚探でたなを探索し、アンカーを投入して船を固定して午後6時~11時頃までと午前5時~8時までの間操業する。餌はムロ、ハラガー（カツオ、マグロの腹側）。漁獲物は氷蔵にする。

(12) 瀬魚一本釣 (ムルー、シルイユ他) …………… 伊是名漁業協同組合

伊是名漁協では漁場に恵まれているが瀬魚釣りは少ない(5~10隻)殆んどはモズク養殖業、曳縄(カツオ、シビ、サワラ、イカ)主体の兼業である。その上製糖期には休漁を余儀なくされる。本漁法はFRP 1.5トン(1人乗り)を使用し、6月~12月の期間中に行われているものを紹介する。

A 漁 具

(イ) 一般構成及び操業見取図(図1-1)

(ロ) 漁具の仕様(表1-1)

B 漁 法

漁場は伊是名、伊平屋周辺の水深20~100mの瀬礁域で対象はムルー(ほぼあかくちび類)シルイユ(しろだい類)、ミーバイ(はた類)等である。漁期は6月~12月、魚探で操業位置を決め早朝から日没前まで操業する。漁具は釣針2本付はムルー、シルイユ等を目的に1本付はアカジンを対象として使い分ける。アカジン釣りの時は天秤を海底につけたままで操業する。餌は冷凍ムロ、イカ(若いイカ)、キビナゴ等である。漁獲物は氷蔵にする。

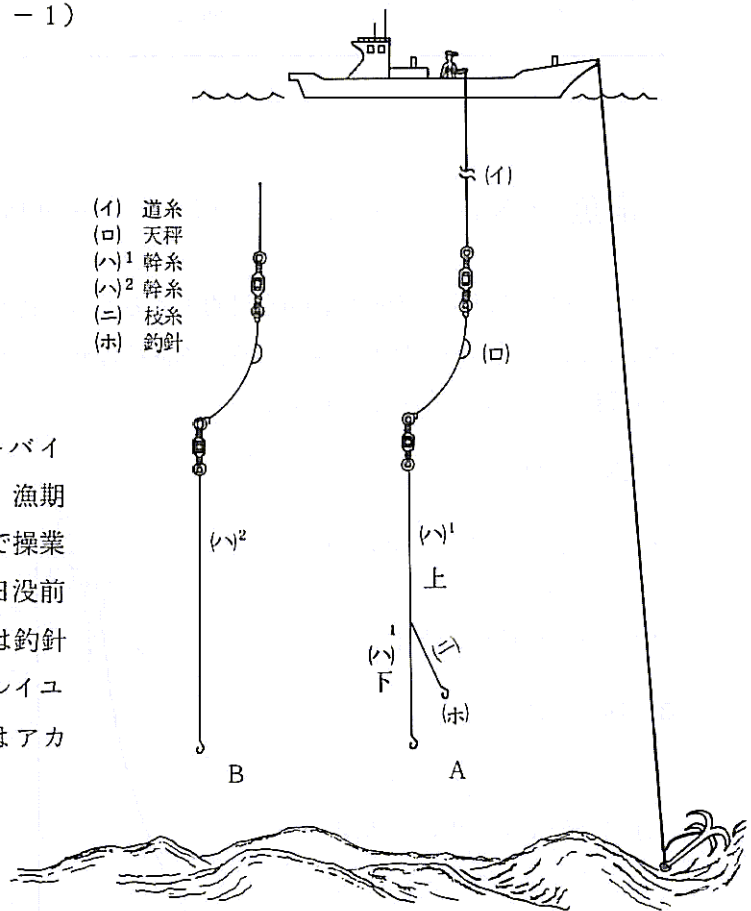


図1-1 漁具の一般構成及び操業見取図  
(Aは一般瀬物用 Bはアカジン(すじあら)用)

表 1 - 1 漁具の仕様

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
イ	道糸	ナイロンテグス	70ポンド 150 m	1本	パーロン印
ロ	天秤	鋼線	#10~20 70 cm	1ヶ	上下：箱型サルカン 中：おもり(鉛) 80匁
ハ <sup>1</sup>	幹糸	ナイロンテグス	16号 上 2 m 下 1.5 m	1本 1本	ニュークロ印
ハ <sup>2</sup>	"	"	30号 6~7 m	1本	ニュークロ印
ニ	枝糸	ナイロンテグス	16号 0.8~1 m	1本	ニュークロ印
ホ	釣針	鋼	A : 20号 B : 23~25号	2本 1本	マチ釣針

(13) 瀬魚一本釣 (ムルー、シルイユ他) ……………伊平屋村漁業協同組合

伊平屋村漁協所属の漁船で瀬魚を目的とするものは約20隻いるが曳縄等との兼業が殆んどで、漁船の多くはサバニである。本漁法はサバニを使って小型魚探(乾式)を持って操業しているものを紹介する。

A 漁具

(イ) 一般構成図及び操業見取図

(図 1 - 1)

(ロ) 漁具の仕様(表 1 - 1)

B 漁法

サバニ(木造)1.5トン、  
漁場は伊平屋島周辺の水深  
30~90mの範囲、漁期は周  
年である。天秤は自作  
する。操業  
は魚探で瀬  
の状態をみ  
て決めたら

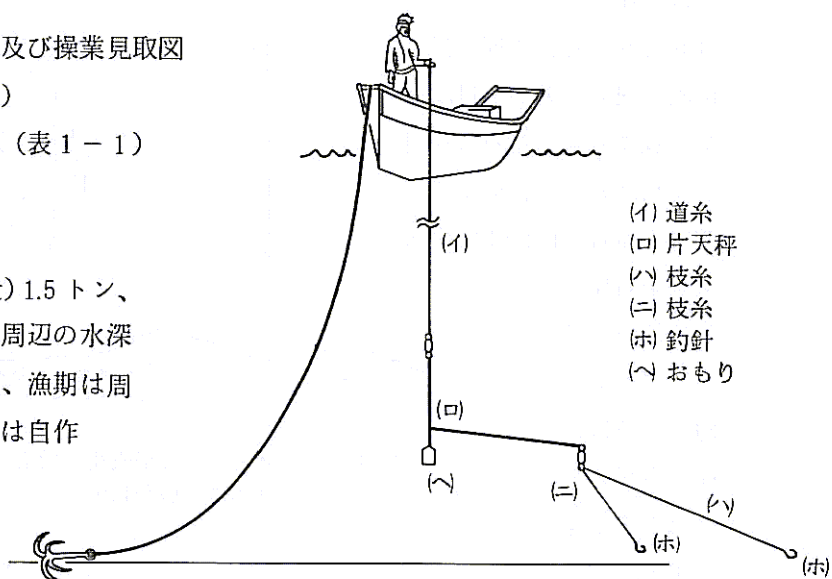


図 1 - 1 漁具の一般構成及び操業見取図

表 1 - 1 漁具の仕様

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
イ	道 糸	ナイロンテグス	20~30号 200 m	1本	上下にタル型サルカ ン4/0付
ロ	片天秤	ステンレス	#12 30cm~60cm	1ケ	
ハ	枝 糸	ナイロンテグス	18号 70cm	1本	
ニ	”	”	18号 45cm	1本	
ホ	釣 針	鋼	20号	2本	マチ釣針
ヘ	おもり	鉛	30~50匁	1ケ	流況により取りかえ

潮上よりアンカー（10Kg程度）を投入して船を立て、餌は冷凍ムロ、小カツオを適宜切って皮付の肉の部分を使う。操業時間は日出から日没直前までである。漁獲物はムルー（ほほあかくちび類）シルイユ（しろだい類）ミーバイ（はた類）等でアイスボックスに氷を入れて保蔵する。

(14) トビイカ釣 …………… 久米島漁業協同組合

久米島におけるトビイカ釣漁業には漁協所属の漁船が殆んど従事していると云っても過言ではない程盛んである。しかもサバニが多い。60余隻が長期操業している。200m等深線を過ぎたら漁場になっている。漁場、漁期は島尻崎南4~5裡からベルト状に具志川村西側にかけては7月下旬~8月上旬、具志川村北沖は8月中旬から下旬にかけて、真泊地先は9月上旬から12月下旬まで漁場が形成される。真泊地先が漁期も長く漁場としても良く、久米島のトビイカ漁は真泊地先の漁如何で豊凶がきまる。ここで紹介するのは真泊地区のサバニによるものである。

A 漁 具

(イ) 操業見取図及び一般構成図（図1-1、図1-2）

(ロ) 漁具の仕様（表1-1）

B 漁 法

1人乗りの動力サバニ（1.5トン）で久米島西~北にかけての操業（7月下旬~8月下旬頃まで）では漁場水深が深い（400~1,500m）こともあって船の安定のため凧型のシーアンカーか、20Kgの重り（シーアンカー代用）を入れて一晩中操業する。日没には漁場に着くようにし、まず図1-1の掛け針を使って投げ釣りをし、

何尾か釣れたら図 1 - 2 (a)(b) の誘集 1 本釣り漁具に切りかえる。(a)は表面近くのトビイカを集めるために使い、(b)は深み (20~50 m) のトビイカを集める目的と、マグロやカジキ釣り兼用に使う。トビイカは友餌釣りの的であるのでトビイカを釣針にかけて降していると喰いつく (1 尾 ~ 5 尾)。その時手元縄 (道糸) は重くなるより浮くように軽くなるので縄をゆっくり引きあげて来て手掛け針 (手釣) で引っかけてとる。数尾誘引されても餌から離れず引っかけられ漁獲される場合も多い。一晩中それをくりかえす。9 月以降 12 月にかけての真泊地先漁場は水深が 160 ~ 400 m と比較的浅いこともあって、碇を入れて操業する。碇は自然石か不用コンクリートブロックを使う。碇は移動する時や、帰港する時は切り捨てる。

漁撈の仕方は殆んど同じであるが操業時間は日没後数時間で帰港したりするのが多く、一晩操業もする。釣獲率は日没後 2 ~ 3 時間と日出前 2 時間に集中して良い。操業時間が短いのは一晩中操業したくさん釣って来ても売るのがに困るといふ價格的

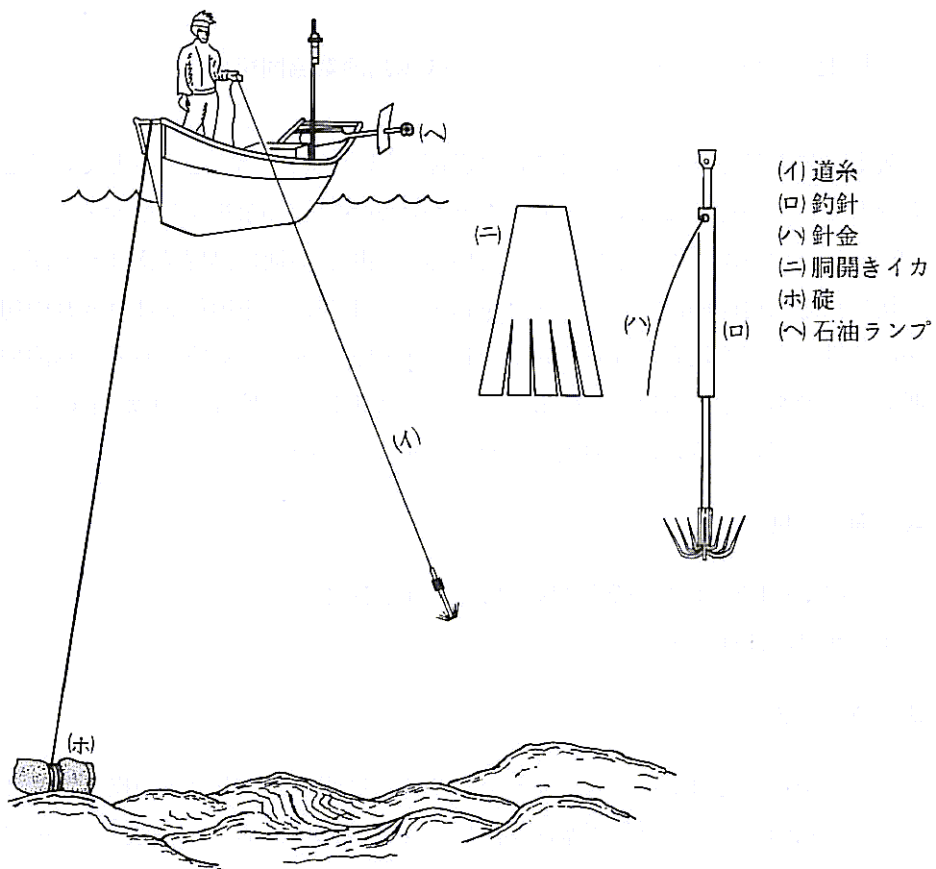


図 1 - 1 操業見取図及び漁具の一般構成図

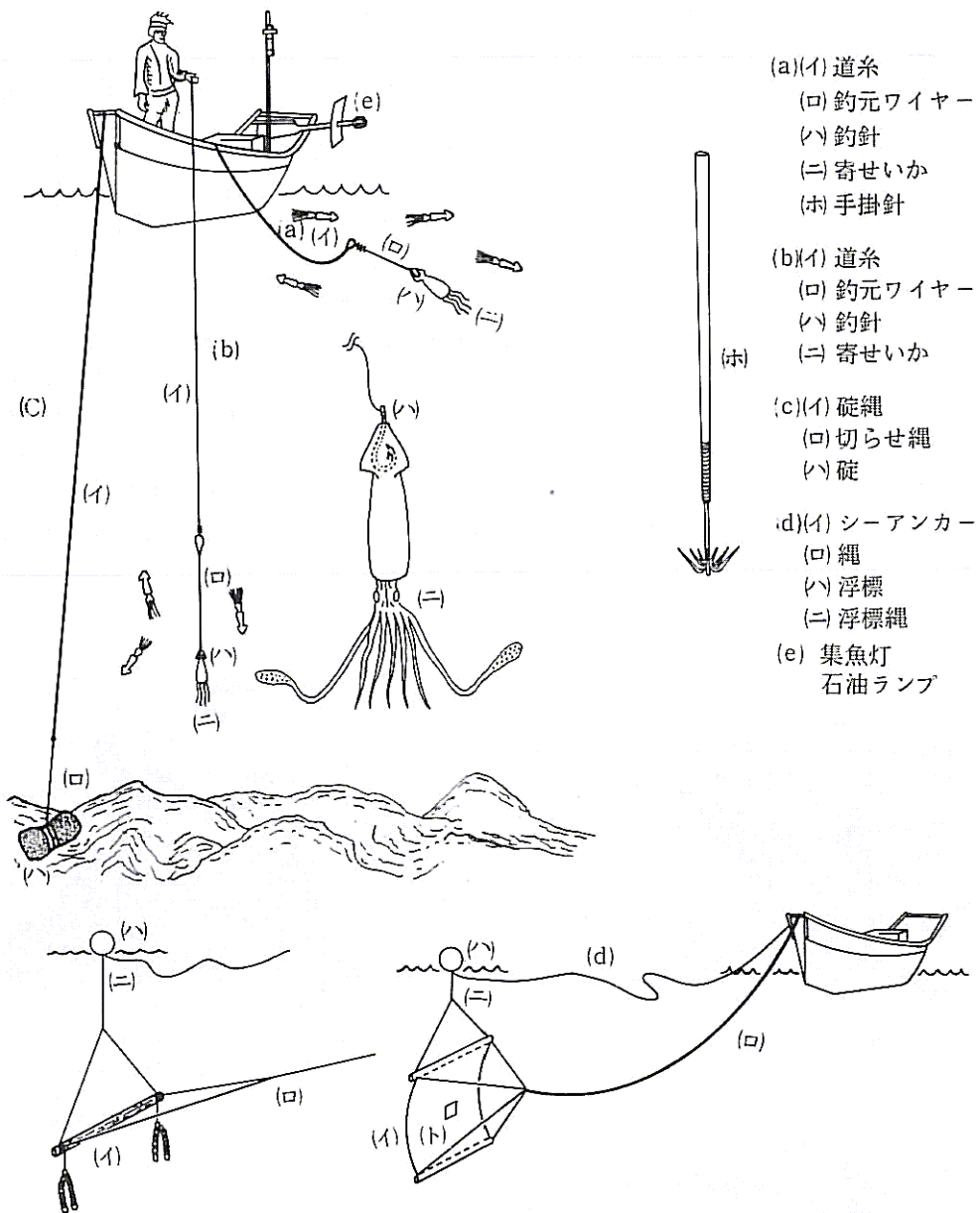


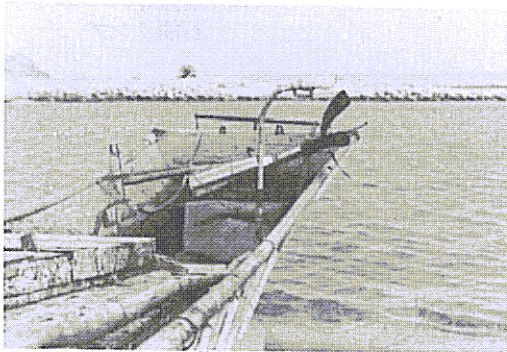
図1-2 操業見取図及び漁具の一般構成図

な要因が大きい。集魚灯（作業灯兼用）には図1-3の石油ランプを使う。（和船型では30W～60Wの白熱電球1個を使う船もいる）イカは氷蔵にするが11月～12月の低温期の2～3時間操業で帰港する時は殆んど氷蔵にしない。

なお図1-3、図1-4は沖縄島南部のトビイカ釣漁船の一般的使用漁具である。

表1-1 漁具の仕様

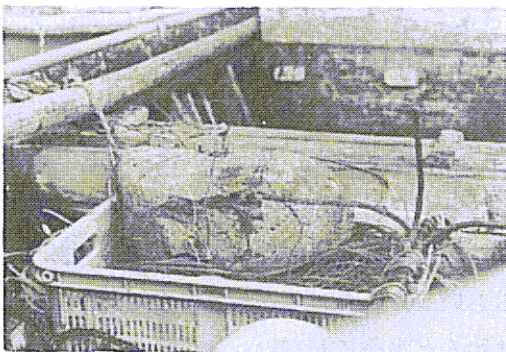
符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考	
図 一 一	イ ロ 道 釣 糸 針	ナイロンテグス ステンレス	100ポンド 5~7 m	1本	パーロン印	
			心棒 太さ 2.8~3 mm 長さ 26 cm	1本	引っ掛け針 (笠針)	
			釣針 太さ 3 mm 長さ 4.5 cm		結着おもり (ステ ンレス)	
	ハ	針 金	鋼	#24~26 40~50 cm	1本	心棒のおもりに穴 をあけて付いている
	ニ	トビイカ開き			1個	心棒についた針金 で巻きつける
ホ	碇			1個	捨て石	
ヘ	石油ランプ	ブリキ板	1斗入れ	1個	集魚灯及び作業灯	



集魚用石油ランプ

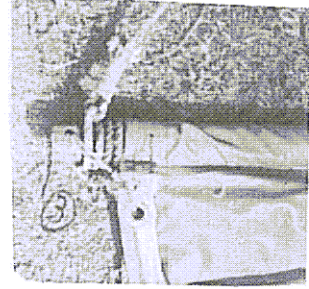
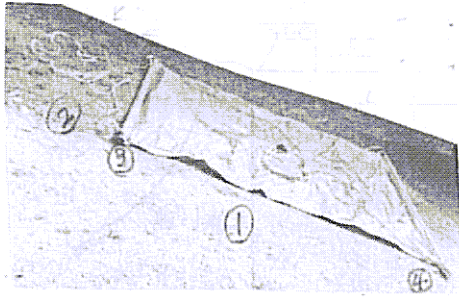


トビイカ釣の7つ道具 ①手掛竿(針)  
②寄せいか(まぐろ釣りも  
兼ねる) ③手かぎ  
④投げ釣針  
⑤タモ



真泊沖での操業用碇 (毎日終漁時切り捨て)





- ① シーアンカー (ビニールシート)
- ② 浮標縄 ③ 上張り木 (丸太)
- ④ 下張り (鋼管) ⑤ 張り鋼

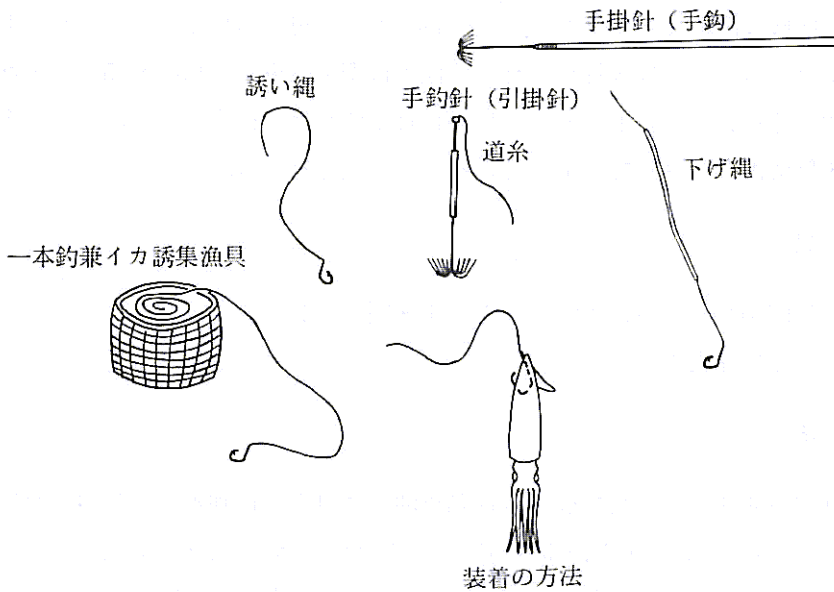
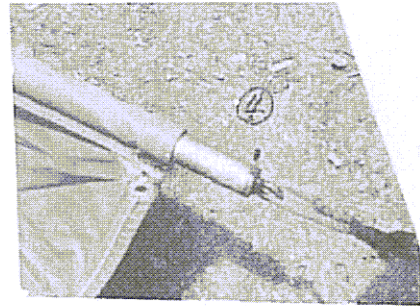
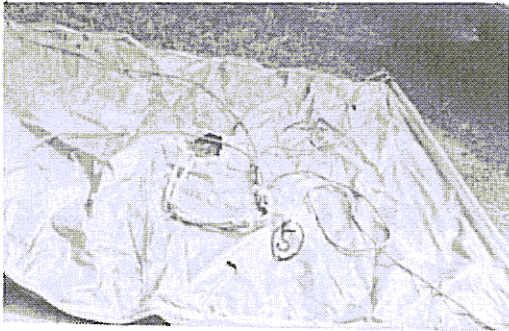


図1-3 県内の一般的漁具構成図

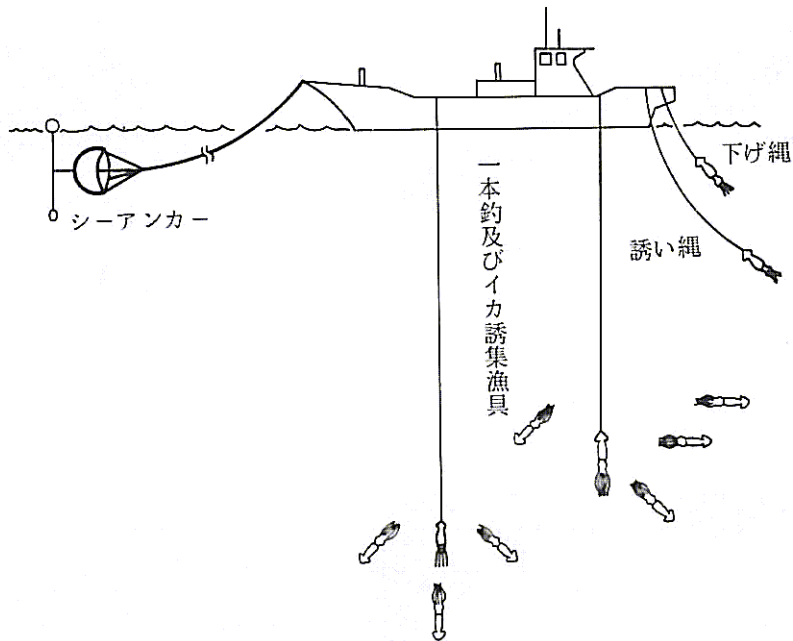


図 1 - 4 操業見取図

(15) トビイカ釣 ..... 国頭漁業協同組合

国頭漁協所属の漁船でトビイカ釣を行うのはクリ舟から和船型の 1.5～3トンの船で20隻余りいる。漁期は8月～11月頃で漁場は安田の東沖合15湊～25湊が主漁場で、産卵回遊する辺戸、宜名真地先でも10月～12月頃にかけて行う。本漁法は2.5トンの和船型で羅針儀だけ装備して操業しているものの紹介である。

A 漁 具

- (イ) 操業見取図及び一般構成図 (図 1 - 1・図 1 - 2)
- (ロ) 漁具の仕様 (表 1 - 1)

B 漁 法

漁場 (安田沖15～25湊及び辺戸～宜名真沖) に日没前に到着するように出港し、漁場についたら風が強い時及び急潮の時はシーアンカーを入れる (なぎや潮が0.3ノット以下の時はシーアンカーは入れない)。集魚灯 (及び作業灯) は30W 1個をつけて操業を始める。最初は図 1 - 1の漁具を使って、まず、餌 (誘いイカ) になるトビイ

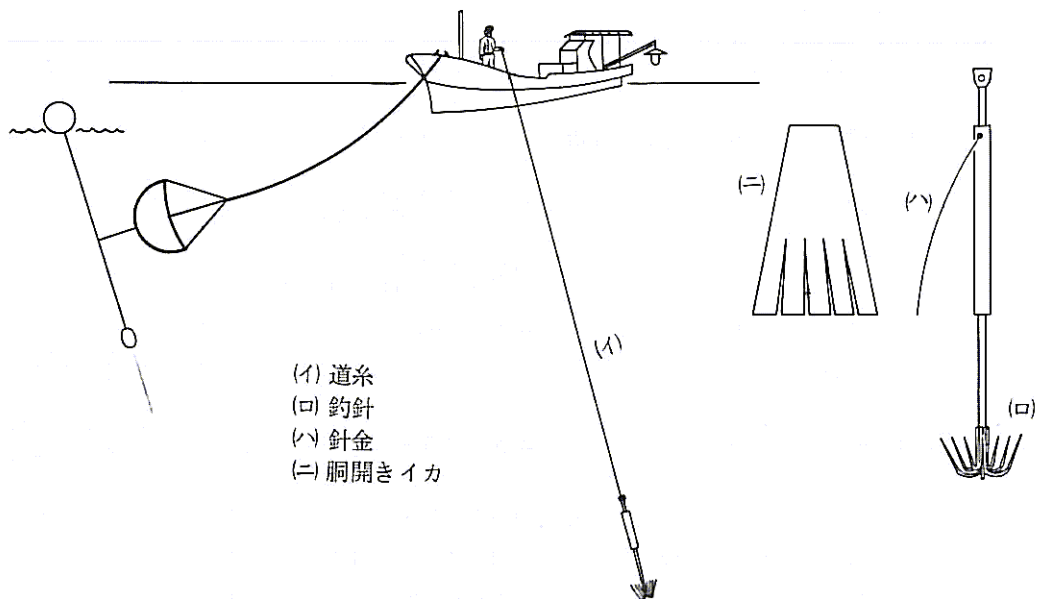


図1-1 操業見取図及び漁具の一般構成図 (誘いイカを釣るため)

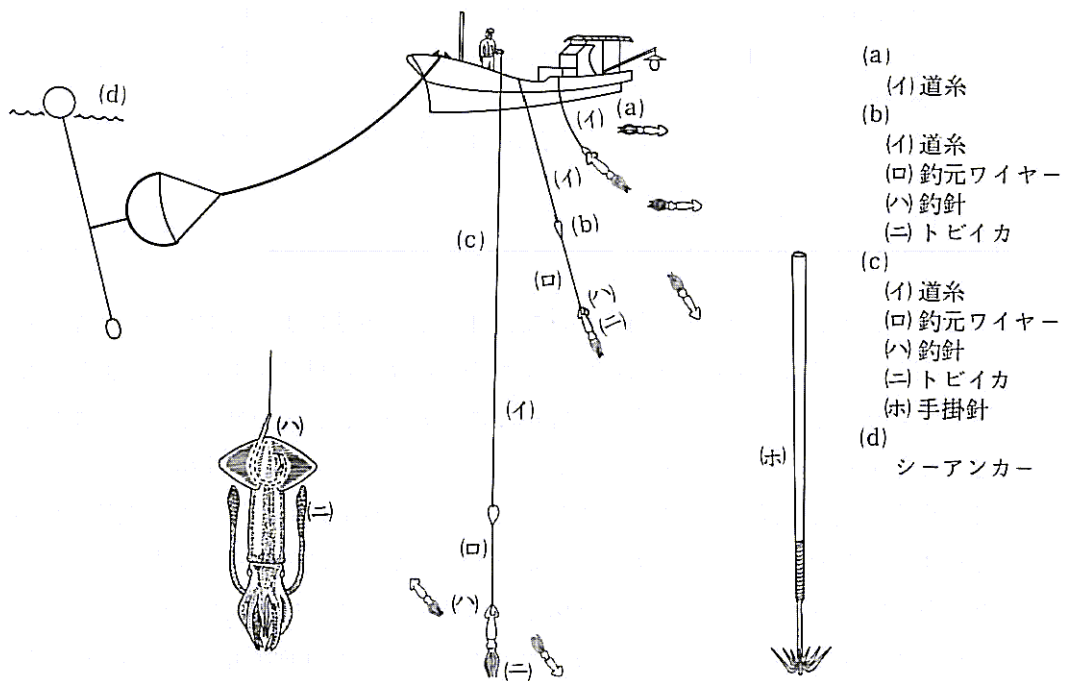


図1-2 操業見取図及び漁具の一般構成図

表1-1 漁具の仕様

	符号	名 称	材 質	規 格・寸 法	数 量	備 考
図 1-1	イ	道 糸	テトロン } 混 ナイロン }	40号 50m	1本	スーパート印
	ロ	釣 針	ステンレス	心棒 { 太さ 3mm 長さ 25~27cm	1本	笠針
	ハ ニ	針 金 胴開きイカ	鋼	釣針 { 太さ 2mm 長さ 4.5~4.7cm #26 50cm	1本 1個	心棒に針金で巻 き付け
図 1-2	(a)イ	道 糸	針 金	#26 1.5m	1本	いかの尾部を針 金で通して結着
	(b)イ ロ ハ ニ ホ	道 糸	テトロン } 混 ナイロン }	100号 6m	1本	スーパート印
		釣元ワイヤー	鋼	#31 1×7 1.5m	1本	
		釣 針	〃	マグロ用 32~35号	1本	
		トビイカ			1個	
	手掛針	ステンレス	長さ 1~2m	1本		
	(c)イ ロ ハ ニ ホ	道 糸	クレモナ	300本合せ 20m	1本	マグロ用
釣元ワイヤー		鋼	#31 1×7 1.5m	1本		
釣 針		〃	32~35号	1本		
トビイカ				1個		
手掛針	ステンレス	長さ 1~2m	1本			
(d)	シーアンカー	ナイロン	パラシュート	1個		

かを釣り上げた後(a)(b)の釣針にかけて図1-2の方法によって本格的な操業を行う。図1-2では水深30~50mにいるイカを(b)の誘い漁具で誘集するが釣餌に1尾~数尾もたかる(トビイカは友餌が好適である)ので、誘い漁具を水面近くまで引き寄せて来るとトビイカも餌に誘われて浮上するのでこれを(ホ)の手掛針で引っかけて漁獲する。また浮上したトビイカはあらかじめ準備した(a)の餌(下げ縄及び待餌と称す)にも喰いつくので手近に引き寄せて引っかけて漁獲する。浮上したトビイカの漁獲は5~6分で済むので漁具(a)、(b)は所定の深さに投げ入れて夜通しこれをくりかえし操業する。なお(c)の釣具はカジキやマグロ等の漁獲用途がある。喰いは日没から10時頃までと翌朝夜明け前2時間程が良い。イカは氷蔵にして朝9時までには帰港する。

## (16) 流し釣 (マグロ類) …………… 伊良部町漁業協同組合

この漁法は宮古で浮魚礁 (一般にパヤオと称している) が昭和57年7月に設置され、その利用が本格的となった。9月頃から使われはじめた。大きめ (15Kg以上) のマグロを漁獲するため考え出された一本釣漁法である。当初は餌にムロ、ヤマトミズン、タカサゴ等を使っていたが冷凍キビナゴ (大) を使い、最近では4トン級以上の魚船スペースのある船は一部活魚船に改造して活餌 (タカサゴ仔、スズメダイ等) を使うようになった。操業はパヤオ周辺でまず流し釣りをを行い、喰いが悪い時はヒコーキ付曳縄を行う。ジャンボ曳はパヤオ周辺での操業は少ない。一般に流し釣の漁期は4月から11月頃までで、4月には比較的小型 (5~6Kg) のシビ主体に漁獲され、5月以降になると、メジ15Kg以上、キメジ25~35Kg主体に、50Kg程度のキハダも漁獲される。

なお次に紹介する漁法は3トン未満船で2人乗りで周年パヤオ周辺で流し釣、ヒコーキ曳を行っているものの紹介である。

### A 漁 具

漁具は、道系の(イ)には①スーパートト印40号~60号を200m~400m、②ダイヤロソックス系 (pp) 3mmを50m~400m使用する (これは大型マグロ等の引く力に応じて放出するため) 道系の(ロ)にはナイロンテグス35号~60号を30cm~50cm使用する。

釣元にはナイロンテグス35号~50号を25m~30m使用する。

サルカンには道糸と道糸間にはタル型2号、道糸と釣元間にはベヤーリングサルカンを一般に使用する。

釣針は魚体の大きさ、掛け餌の大小により多少かわるが、大体14号~20号で丸型で胴短かく、ふところが広いのを使用する。

(イ) 漁具の一般構成と操業見取図及び装餌方法 (図1-1、図1-2)

(ロ) 漁具の仕様 (表1-1)

### B 漁 法

日帰り操業で未明から操業を開始する。操業は日中行うが朝まずめと日没前後が全体的に喰いが良い。冷凍キビナゴ (大) を主たる掛餌として使い、パヤオの潮上約200~300mから船を横にして流しながら4本の縄を入れる。立て縄釣というより曳縄的である。魚の蝟集場所、喰い付き具合、潮、風の状況で流し釣にお

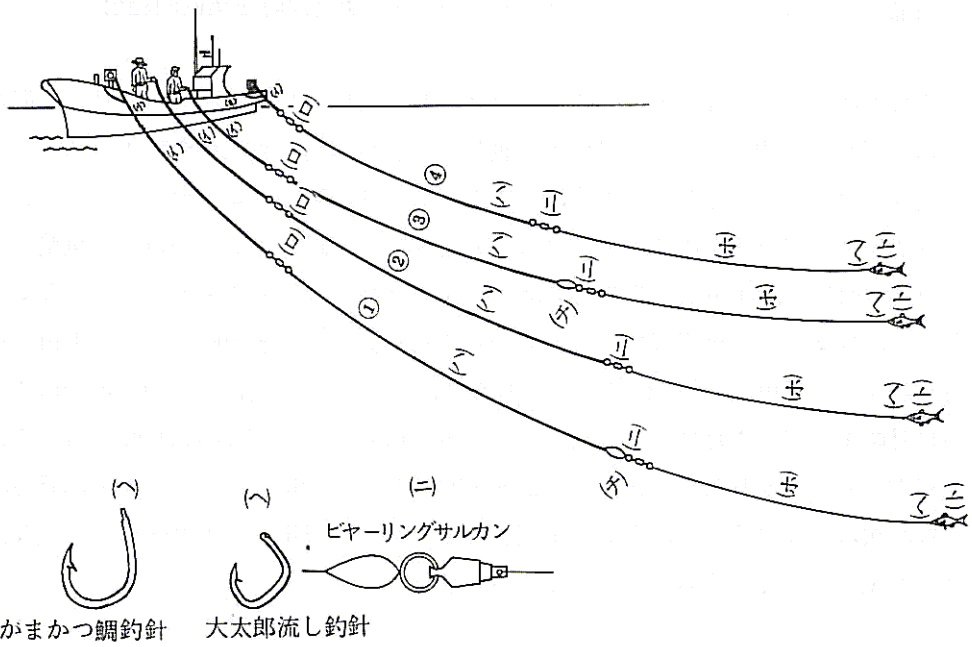


図1-1 漁具の一般構成と操業見取図及び釣針とサルカン

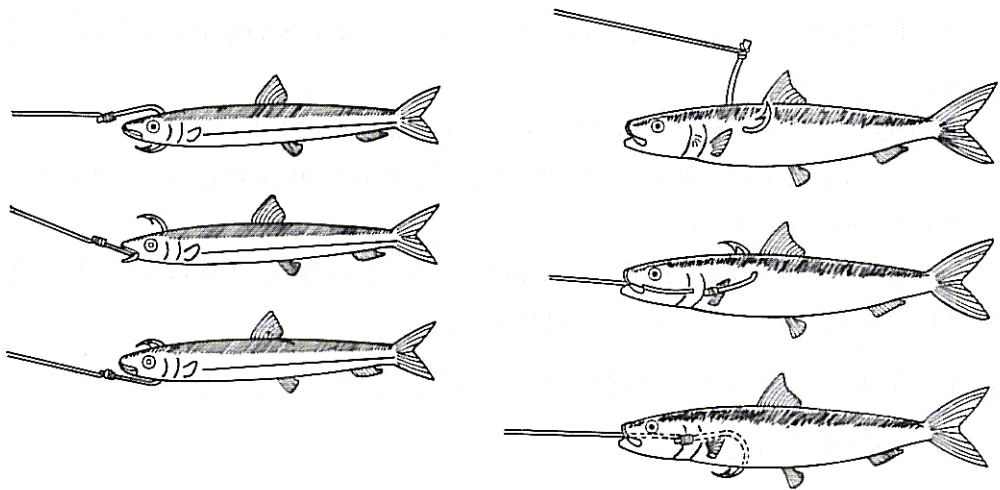


図1-2 装餌方法

もりをつけたり、はずしたり加減する。55mの縄で海面下1~3m程度に餌(釣針)が曳かれる状態にあれば喰いが良い。流しながらキビナゴを撒餌として適宜使う。

(使用量は1日約6~10Kg)。この漁撈方法をくりかえす。漁獲物はマグロ(キハ

表1-1 漁具の仕様(4本分)

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
イ	道 糸	ポリプロピレン	3mm 300~700m	3本	ダイヤロンクロスロープ
		テトロン } 混 ナイロン }	60号 200~400m	1本	スーパートト印
ロ	サルカン	鋼	2号	4個	ニッケルサルカン (タル型)
ハ	幹 糸	ナイロンテグス	50~60号 30m	4本	ニュークロ印又は海力印
ニ	サルカン	ステンレス	ベヤーリング型 6mm	4個	
ホ	釣 元	ナイロンテグス	40号 25m	4本	ガンマーダーク印
ヘ	釣 針	鋼	13号~16号	4本	大太郎流し釣針、がま かつ釣針
ト	餌			4	冷凍キビナゴ(大)又 はヤマトミズン(小)
チ	おもり	鉛	1~3匁	2ケ	①と③にとりつけ漁具 (4本)に水深差をつ ける
リ	切らせ	綿 糸	6本合せ 30~50cm	2本	人間の手元以外

ダ、メバチ)で10Kg以上は脊ずい通しをして即死させ鰓腹を除却して水氷(-1°  
~3°C)にして保蔵する。4月~11月が本格的流し釣の漁期で冬期は流し釣用  
マグロは殆んど少ないので様子を見る程度の流し釣で、大部分は小型魚(1Kg~  
3Kg程度)をねらってヒコーキ曳を行う。

(17) カツオ一本釣 ..... 本部漁業協同組合

本部漁協所属のカツオ漁船は49トン型のFRP3隻が稼動している。乗組員は釣り  
船が16~20人、活餌とり14~15人で構成される。漁場は沖縄本島、離島沖合の曾根域で  
この海域で漁が少ない場合は大九曾根まで出漁する。その時は2日航海になるが殆ん  
ど日帰り操業である。

漁期は活餌の出現とも係わり4月~11月頃までである。漁獲物は水氷にし、大半が  
カツオ節に製造加工される。ここで紹介する漁法は特定漁船のものでなく一般的なもの  
である。

## A 漁 具

釣竿はグラスファイバーを使う。手元の握り部に綿糸を巻き、すべり止めにする。釣竿には擬餌針用糸と掛餌用糸が同一竿先のつぼで結着される。その他の付属具は撒餌用タモ、活魚（撒餌）おけ等が必要である。

(イ) 一般構成図 (図 1-1)

(ロ) 釣針と装餌方法 (図 1-2)

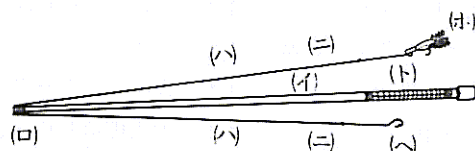


図 1-1 漁具の一般構成図

- (イ) 釣竿(グラスロッド) 長さ  
3.2 m、根元 4 cm、先端 8 mm
- (ロ) つぼ
- (ハ) 道糸(ナイロンテグス 80号)  
(a) 2.5 m、(b) 2.7 m
- (ニ) 釣元(ナイロンテグス 50号)  
22cm
- (ホ) 擬餌針(毛針 18~25号)
- (ヘ) 釣針(カツオ針 15号)
- (ト) にぎり

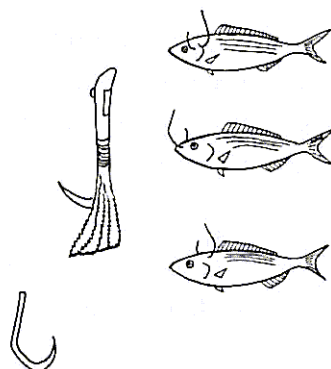


図 1-2 釣針と装餌方法

## B 漁 法

午後10時頃餌場に行き蓄養活餌(キビナゴ、タレクチ(いんどあいのこ)、ミズン、ガツン(めあじ)等)を積み込み、午前零時頃出港し漁場に向う。漁場は曾根域の魚群で一般に曾根つきと云われるものであるが鳥(カツオ島、ミズナギ鳥等)が群舞するのを双眼鏡で確認し、先頭魚の前方に出て投餌するとともにシャワー(散水)する。瀬付魚群の場合は潮上から潮下に流れながら投餌し、餌に喰い付くと船を旋回して釣獲舷の反対から風を受けるようにする。魚群が船側に近づくと多量の撒餌をし、散水し一斉に釣獲を始める。釣針は普通擬餌針(サビキ)を使用するが、喰い付きが悪いときは掛け針に活餌をつけて釣獲する。大型魚(マグロや大判)の時は釣り上げて脇にかかえて釣針をはずす場合のほかは釣り上げたいきおいを利用して竿を振って空中で釣針をはずし魚を落下させる方法をとる。活餌としてサネラー(タカサゴ類の幼魚)は良いが獲る団体がいないこと等から使わなくなった。

漁獲物はカツオ、シビで水氷(0°~-3°)で塩は入れない。氷の積載量は大体



800 Kg。

(ハ) 人員配置等 (図 1 - 3)

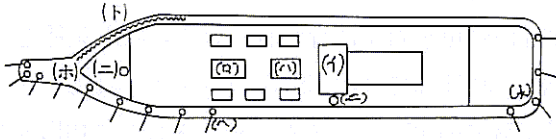


図 1 - 3 人員配置等

- (イ) 操蛇室
- (ロ) 活魚艙
- (ハ) 魚艙
- (ニ) 撒餌 (おけ)
- (ホ) 釣り手
- (ヘ) 釣り台
- (ト) 防ぎよ網
- (釣り上げた魚の海への落下防止網)